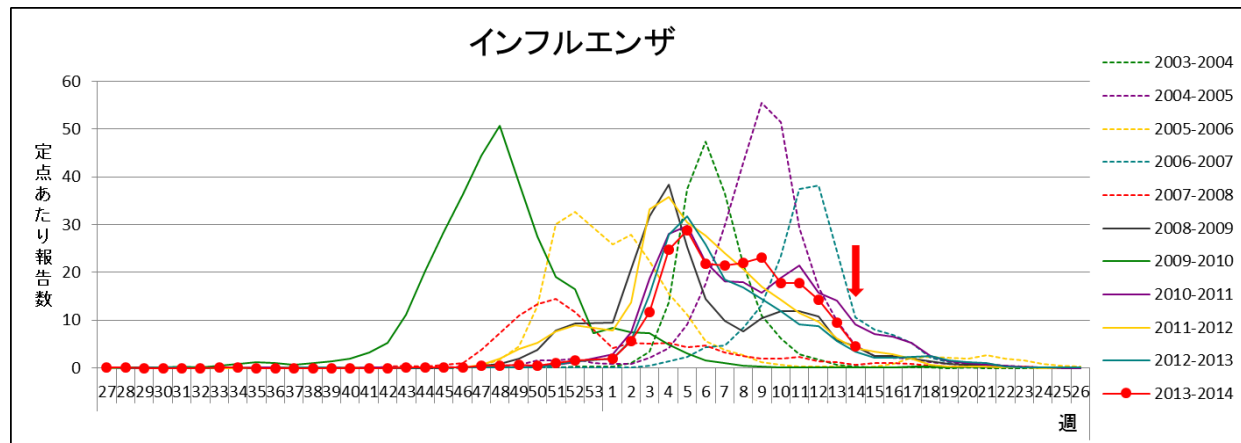


インフルエンザ情報 2014 年 第 14 週 (3 月 31 日 ~ 4 月 6 日)

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 384 名（定点あたり 9.48 → 4.57 人）の発生があり、前週より減少しました。
- インフルエンザによる入院患者 3 名の報告がありました。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。



インフルエンザは、県全体で 384 名（定点あたり 9.48 → 4.57 人）の発生があり、前週より減少しました（84 定点医療機関報告）。

全ての地域で報告数が減少しましたが、地域別では、真庭地域（8.33 人）、備北地域（7.33 人）、倉敷市（6.31 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

学校等では新学期が始まり、集団生活の中で感染の機会は増加します。ひきつづき『外出後や食事前の手洗い・うがいを徹底する』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する』『十分な睡眠をとる』など、感染予防に努めて下さい。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

◆インフルエンザが流行しています。感染予防と拡大防止に努めて下さい。

◎外から帰ったときや、食事前には手洗い・うがいを心がけましょう。

アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。

◎インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。

周囲の方々のためにも普段から「咳エチケット」を心がけましょう。

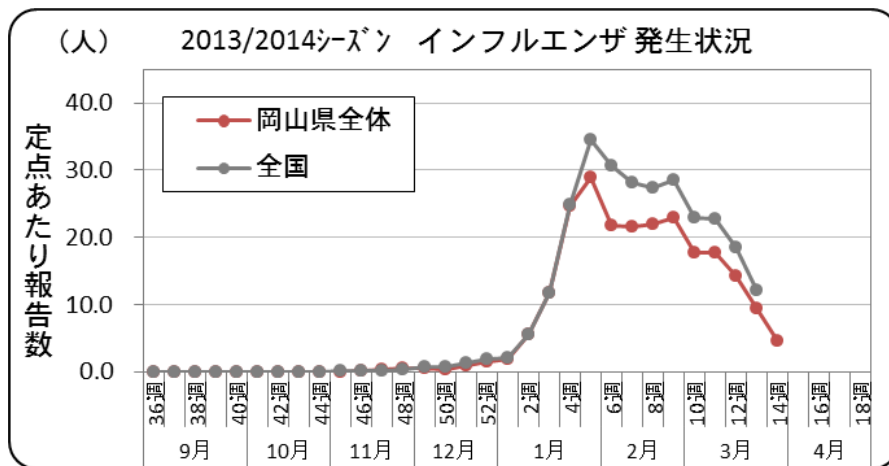
◎可能な限り人混みを避け、マスクを着用しましょう。体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた食事を心がけましょう。

1. 地域別発生状況

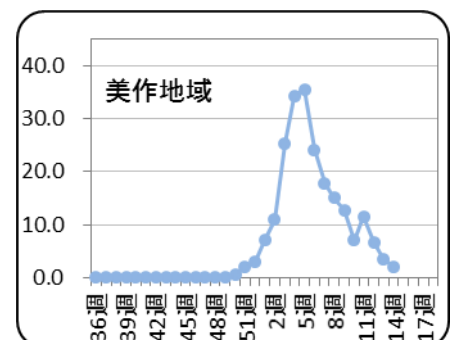
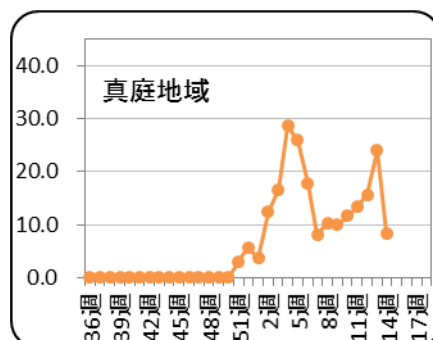
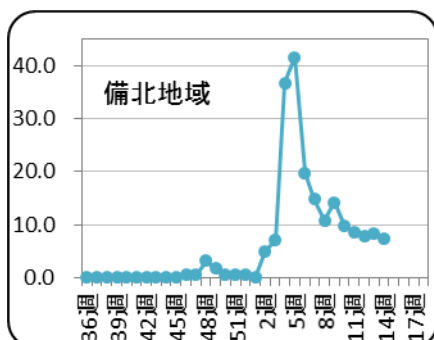
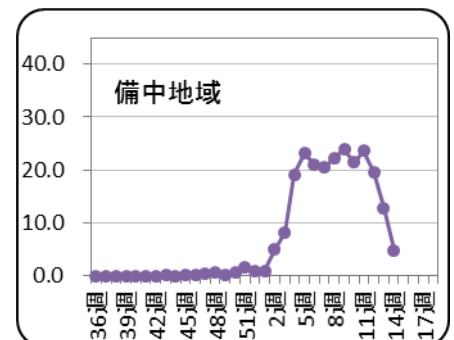
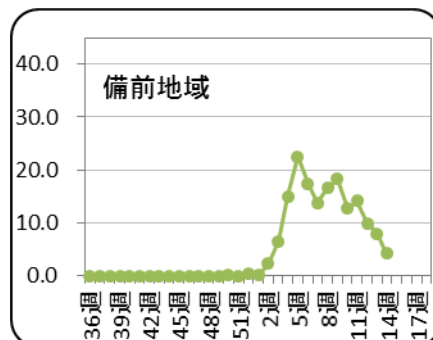
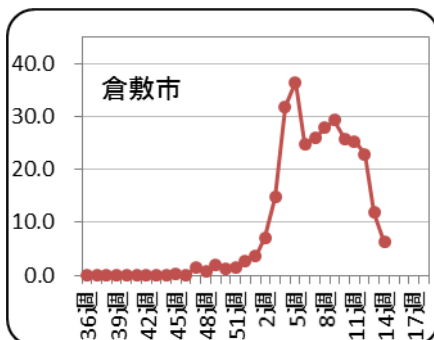
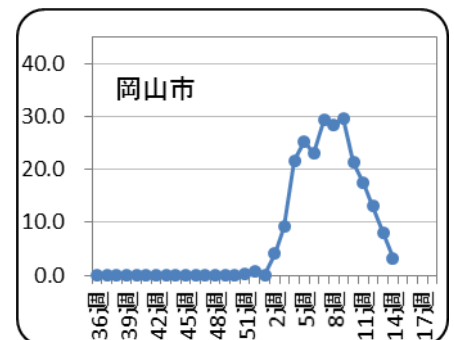
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	384	↓	備 中	患者数	58	↓
	定点あたり	4.57			定点あたり	4.83	
岡山市	患者数	72	↓	備 北	患者数	44	↓
	定点あたり	3.27			定点あたり	7.33	
倉敷市	患者数	101	↓	真 庭	患者数	25	↓
	定点あたり	6.31			定点あたり	8.33	
備 前	患者数	63	↓	美 作	患者数	21	↓
	定点あたり	4.20			定点あたり	2.10	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↓ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↑ 2倍以上の増加 ↑

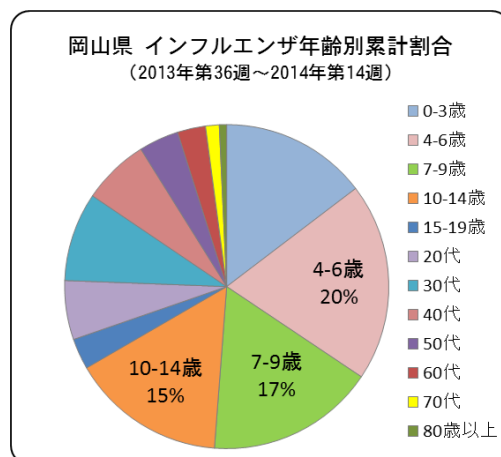
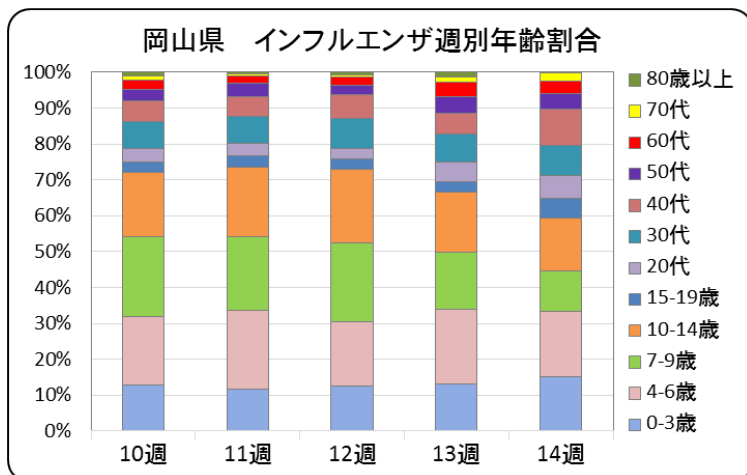


全国集計第13週(3/24～3/30)速報値によると、全国では定点あたり12.13人であり、前週より減少しました。地域別では、福井県(27.19人)、岩手県(22.13人)、山形県(20.10人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、47都道府県全てで前週より減少しました。



2. 年齢別発生状況

今シーズン（2013年9月2日～）の年齢別累計割合は、4～6歳 20%、7～9歳 17%、10～14歳 15%の順で多くなっています。



3. インフルエンザウイルス検出状況

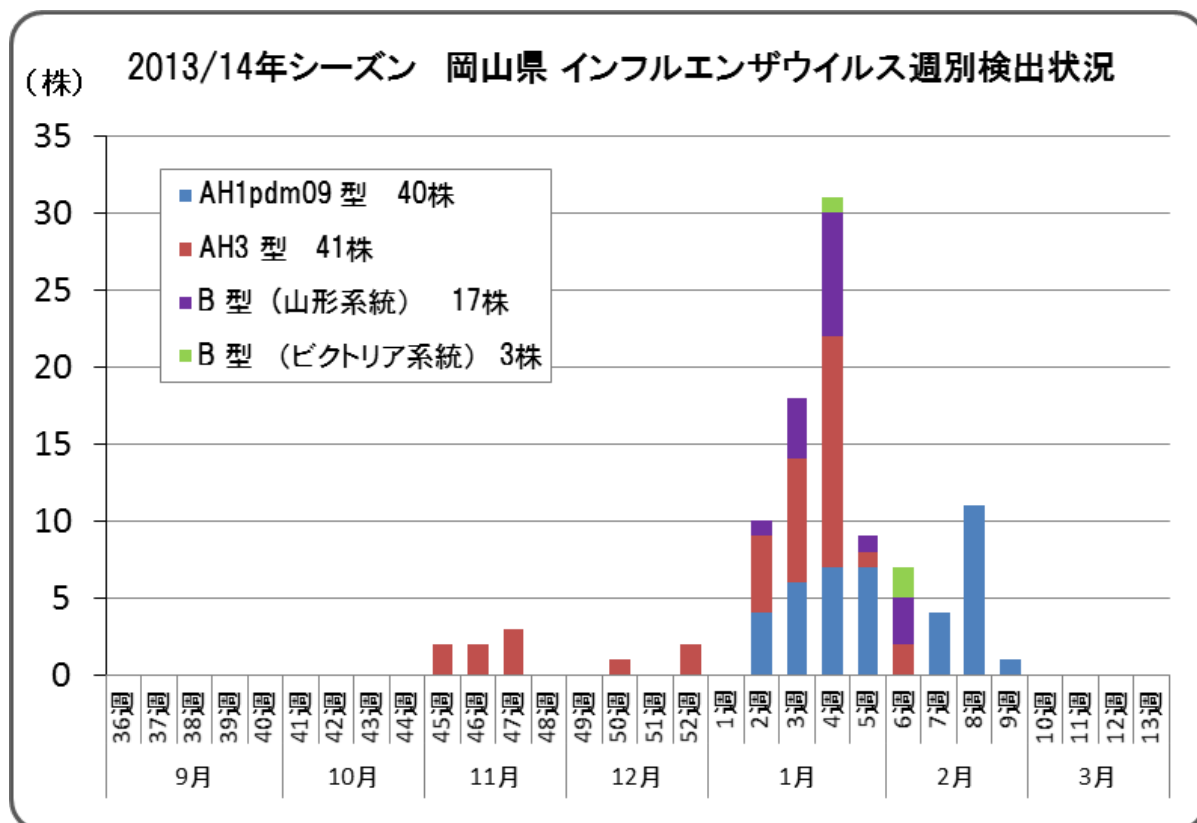
第14週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズンでこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が41株（40%）、AH1pdm09型が40株（40%）、B型が20株（20%）となっています。

・ [（岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況）](#)

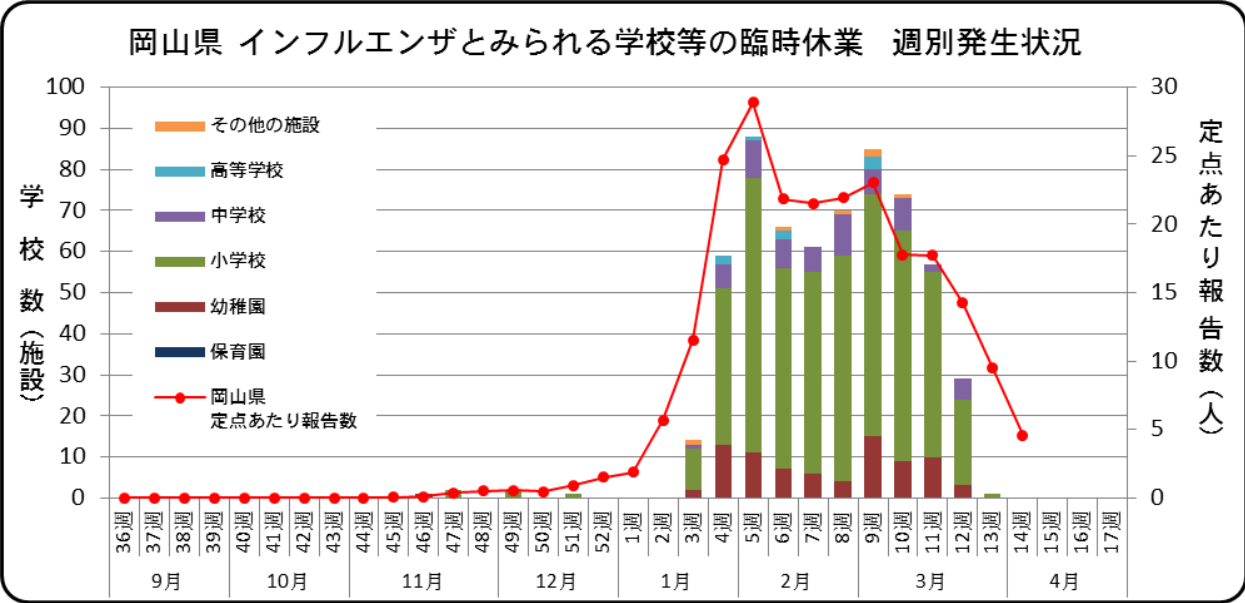
全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 46%、B型 31%、AH3型 23%の順に多く検出されています。1月以降はB型とAH1pdm09型の検出割合が増加しています。

AH1pdm09型のインフルエンザウイルスは、4年前の2009/2010年シーズンに新型インフルエンザとして大流行し、その年に検出されたウイルスの98%がAH1pdm09型となりました。その後、2011年4月以降は通常の季節性インフルエンザの扱いとなり、つづく2シーズンは低い検出率（0.2～2.4%）でしたが、今シーズンは3年ぶりに検出率が高くなっています。（平成26年4月10日現在）

・ [（インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所））](#)



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数
 インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	0	8870	0	6774	0	610	0	14	0	169	0	427	H25. 11. 13
岡山市	0	3738	0	2715	0	223	0	3	0	35	0	185	H26. 1. 14
倉敷市	0	1559	0	1243	0	112	0	1	0	22	0	89	H25. 11. 18
備前地域	0	758	0	615	0	68	0	1	0	34	0	33	H26. 1. 16
備中地域	0	1216	0	950	0	90	0	0	0	24	0	66	H25. 11. 13
備北地域	0	115	0	98	0	12	0	2	0	5	0	5	H26. 1. 23
真庭地域	0	118	0	97	0	12	0	0	0	9	0	3	H26. 1. 27
美作地域	0	1366	0	1056	0	93	0	7	0	40	0	46	H25. 12. 20

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

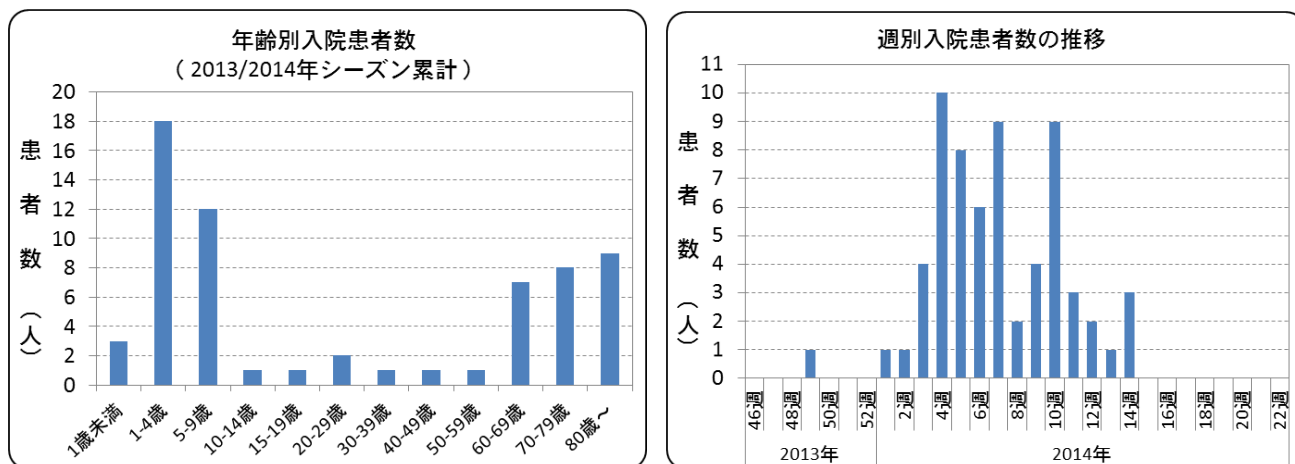
2) 臨時休業施設数の内訳第 14 週： 0 施設 累計： 610 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	81	0	455	0	60	0	8	0	6

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、3 名（1～4 歳 2 名、5～9 歳 1 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 14 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		2	1										3
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査 (予定含)													
頭部 MRI 検査 (予定含)													
脳波検査 (予定含)													
いずれにも該当せず		2	1										3

* 重複あり

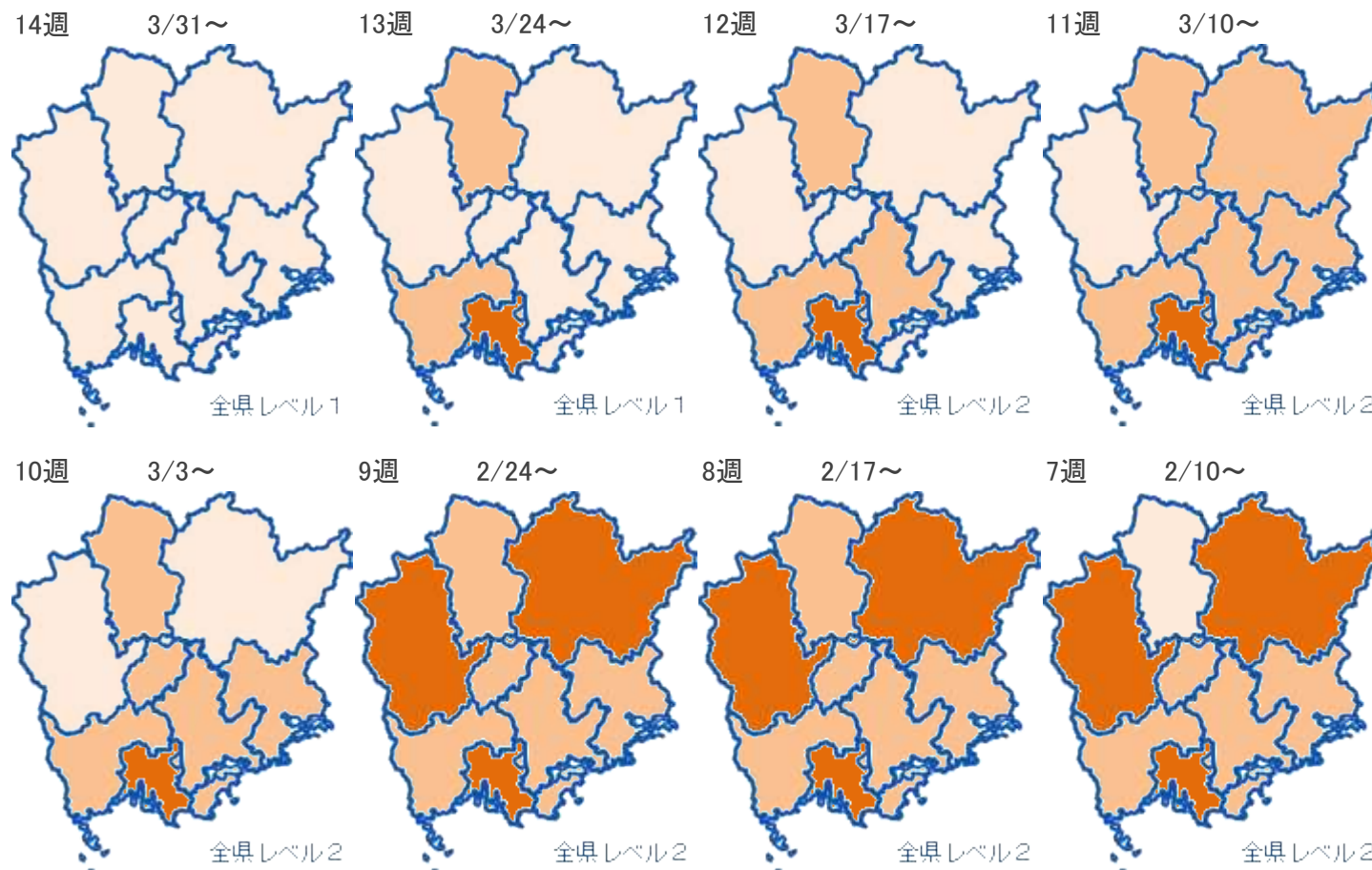
【平成 25 年 9 月 2 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	3	18	12	1	1	2	1	1	1	7	8	9	64
ICU 入室		1							1				2
人工呼吸器の利用		1									2		3
頭部 CT 検査 (予定含)		3	1						1		1		6
頭部 MRI 検査 (予定含)	1	2	2						1		1	1	8
脳波検査 (予定含)	1	2	2										5
いずれにも該当せず	2	14	9	1	1	2	1	1		7	5	8	51

* 重複あり



インフルエンザ



レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満	0 < 10 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。